

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	549 市街地整備推進事業	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	04	都市計画費
		目	02	市街地整備推進費
基本 施策	27 秩序の中にもぎわいのある都市空間をつくる	細目	371	市街地整備推進事業
		細々目	51	市街地整備推進事業費
行革大綱の重点事項番号		1.4.6		
担当部署	コード	190700		担当者 氏名
	名称	産業建設部都市計画課		
			山本 幸一郎	連絡先
			43 - 2314	(内線)

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀市景観計画の進行管理	※対象件数
成果(どうする)	伊賀市の自然、歴史、文化等を生かした個性豊かな伊賀らしい景観まちづくりを進め、愛着と誇りを持つ「ふるさと伊賀」の実現に寄与することを目的とし、伊賀市景観計画の策定が行われた。	
根拠法令・要綱等	景観法	
開始年度	平成 13 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	平成21年1月に施行した伊賀市景観計画の運用と伊賀市ふるさと風景づくり条例により指導、監視を行った。また、上野天神祭りに合わせてだんじりの生える景観大賞パネル展を行った。	
社会情勢 の変化等	伊賀市全域において景観行政を進めるための「伊賀市ふるさと風景づくり条例」の施行と「伊賀市景観計画」の運用は、良好な景観形成の促進を図る上で大変有効であり、施行と運用後は順調に届出がなされている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積 (延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値		
			H20	H21	H22	H23	
計画策定のための景観審議会及び景観検討委員会等の開催	計画策定後の景観審議会及び景観検討委員会等の開催	回	目標	3	目標	—	
			実績	3	実績	—	
		回	目標	2	目標	3	3
			実績	2	実績	1	

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
計画策定のための景観審議会の開催回数	計画策定後の景観審議会の開催回数	開催回数の比較により計画策定の進捗がわかる。	回	目標	2	目標	—
				実績	2	実績	—
		策定後は開催回数が少ないほど良好な運用が図れている。	目標	2	目標	3	3
			実績	2	実績	1	

投入 コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計 (A)	430		182		488		488	
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0		0		0		0	
一般財源	430		182		488		488	
事業投入人件費 (B)	0.3 人	2,160	0.3 人	2,160	0.3 人	2,160	0.3 人	2,160
フルコスト(A)+(B)	2,590		2,342		2,648		2,648	

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
有効 達成 性	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
達成 度	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
達成 率	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
達成 率	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
達成 率	予算の繰越の有無	無
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効果 性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
効果 性	【事業名】	
	受益者負担を求められることができる事業である。	
効果 性	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	伊賀市景観計画の策定に向け議論する場として、また、運用後は、指導を要する届出に対し議論する場として景観審議会を設置し、景観計画の進行管理も行う。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 色彩ガイドラインの策定に着手するとともに、アドバイザー(外部有識者)による意見聴取の機会を設けることとした。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	清水 仁敏
【方向性】	現状維持
【理由】	景観計画に沿い「伝統と風格のある城下町にふさわしいまちなみ」の保存と再生、継承のため、今後も継続する必要がある。
現時点における 課題、その他	まちなみの保存、再生並びに継承に対する住民意識の向上。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	H22も継続した指導と監視を行う。